

①対応済の案件

年	月	質問要旨	答弁要旨	対応方針・進捗状況	所管課
31	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大津町の町営住宅条例には、入居の承継について明確な基準がない。住宅入居者から「役場から親子の入居の引き継ぎはできない」と言われ、途方に暮れている人もいる。</li> <li>・入居者の居住権は、きちんと保障されるべきだと考える。法律にも条例にも、規則にもない住宅入居者の承継基準を明確にわかりやすく制定すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は親子間の承継、いわゆる一等親の親族の承継についてもできるように、基準の見直しを行い、入居承継の具体的な要綱等を作成したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年5月20日現在</li> <li>・令和2年3月31日告示「大津町営住宅入居承継承認取扱要綱」</li> <li>・令和2年4月1日より施行</li> </ul>	住民課
元	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町がパートナーシップ宣誓書受領証を発行することで、差別や偏見をなくすための土壌づくりが進む。</li> <li>行政としての支援できる方策を積み重ねていくべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートナーシップ制度については、職員の公助ができた段階に内容を検討し、つくっていききたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が性的マイノリティの方々への理解を深め、窓口対応において合理的配慮が出来るよう職員向けマニュアルを完成し職員へ周知した。令和元年11月に正規職員及び臨時・非常勤職員を対象とした全職員研修を実施。</li> <li>・職員マニュアルについては、庁内部課等の人権学習会などで継続して活用していくと同時に、令和2年4月1日付けで町ホームページへ掲載を実施。</li> <li>・パートナーシップ宣誓制度については、多様性を認め合う社会づくりに向け将来的に導入の必要性は感じているが、啓発する立場の職員が、まず正しい認識がなければ支障を来す恐れがある。当面、職員のスキルアップを構築するための研修会を重ねながら、性的マイノリティの方々への理解を深め、広く制度への認知度を高めていきたいと考えている。</li> </ul>	人権推進課

元 9	<p>地域性を考慮した総合的な（流域治水）治水対策の取り組みについて、大津北小学校近くの平川に堆積土砂があり流下能力が低下しているのではないか。撤去を検討するべきではないか。</p>	<p>平川の堆積土砂の撤去については早急に検討し、現地を確認して、県との協議を進めていきたい。</p>	<p>対応済</p>	<p>令和元年度の熊本県砂防事業で浚渫を実施。</p>	<p>建設課</p>
元 12	<p>・人生100年時代を迎えて定年した元気な高齢者が増えている。そうした方々にとっても生涯学習やボランティア、運動を通じた学びや楽しみ、さらに交流や外出は、暮らしの一層の充実や健康に繋がるものである。生涯学習講座等の”場”の更なる充実を（メニュー、時間、場所）。</p>	<p>・（現状の講座開設では）若い方が参加できない部分等があるので、そういうところも踏まえて、できるだけ夕方の時間や休日を含めて前向きに検討したい。また、講師の募集については、広報誌あたりを通じてさせていただきたい。</p>	<p>対応済</p>	<p>・公民館自主講座は、本年度は92講座開講している（2月開講分まで）。受講者が参加しやすいようにと議員が指摘された日中の時間（8:30～17:15）以外に開講した講座は夜間19講座（20.6%）、休日18講座（19.6%）の計37講座（40.2%）となっている。また、生涯学習センター以外の場所で開講した25講座を含めると62講座（67.4%）となり、受講生に配慮した開設状況になっていると思われるが、今後も市民のニーズに十分に答えられるよう取り組んでいきたい。</p> <p>・講師の確保については、3月生涯学習情報誌に募集記事を掲載し、講師を幅広い分野から集められるよう呼びかけを行った結果、3件の申込みがあり、1名については、6月に新規公民館主催講座として開講する予定である。</p>	<p>生涯学習課</p>

②対応中、対応方針を決定した案件

年	月	質問要旨	答弁要旨	対応方針・進捗状況	所管課	
29	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大津町における公共交通網の現状とあり方については、平成28年3月策定の大津町地域交通網形成計画において分析され、個別計画策定が平成29年度になされる予定になっている。</li> <li>・公共交通を福祉の観点から捉えれば、高齢者に外出の動機付けをすることや健康づくりにつなげる取り組みが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部課を超えた総合的な体制づくりとして、公共交通会議における専門部会の設置を検討したい。</li> <li>・高齢者で免許証を自主返納された方への対応策についても検討したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通網形成計画に基づき、地域公共交通会議やその事業者部会で協議しながら、町内バス路線や、乗合タクシーの見直しを進めている。</li> <li>・令和2年4月より乗合タクシー利用対象地区の拡大（北部、南部地区の全域化及び大津東区への導入）を予定している。これにより高齢者に対する公共交通の利便性は向上される。町中部については、既存のバス路線や外出支援タクシーによりサポートを行いつつ、巡回バス（タクシー）等の検討を継続していきたい。</li> </ul>	対応中	総合政策課
元	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽度認知障害（MCI）への「選択と集中」による啓発を徹底し、さらに診断・治療に至る実効策として検査・受診へのインセンティブ（チェックシート返送者への地域振興券発行等）の付与をすることで早期発見から治療へ確実に繋げる考えはないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアパスについては、今年度改訂作業を行い、来年度印刷し、住民への周知を行いたい。また、インセンティブ（意欲向上のための刺激策）については、まずは「水水（元気大津づくり活動）」のポイントを考えていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年11月に発送した、75歳以上の介護保険未認定者に対して送付する「チェックリスト」において、MCIの自己チェック（10項目）に3項目以上チェックが付いた対象者（MCI疑いあり）及び認知症に関する不安や相談の記載があった対象者へ、個別訪問等によりフォロー。</li> <li>（該当者）122名のうち今回フォロー予定者106名。その他はすでに包括支援センターの関わりや病院受診に繋がっているケース。</li> <li>（内訳）3～4項目のチェック有：41名 5～10項目のチェック有：65名</li> <li>（内容）電話や自宅訪問等により心身や生活の状況について確認を行い、必要に応じ、病院受診などの関係機関や運動教室へ繋いでいる。</li> <li>・4月末時点で、家族や民生委員への聴き取りを含め、全員と接触済み。その後は、適宜フォローを継続していく。</li> <li>・認知症ケアパスについては、印刷中。6月上旬に納品予定。</li> </ul>	対応中	介護保険課

元	12	<p>・私達の住む、地球全体で地球温暖化が進んでいるのが現実である。日本もその影響で亜熱帯化になりつつあり、毎年、台風や豪雨の被害で甚大な被害が起きているが、我が大津町でも対策が必要と思う。町内のハザードマップの見直しが必要ではないか。</p>	<p>・各世帯に配布しているハザードマップについて浸水地域に該当している地域の方への説明・周知とともに、早期にハザードマップの見直しを行いたいと考えている。</p>	<p>対応中</p>	<p>・「洪水土砂災害ハザードマップ」を平成30年に作成して全世帯に配布しているが、昨年、県から白川の浸水想定区域に関して、これまでの計画規模（100年から200年に1度発生する洪水を想定）から想定最大浸水規模（1000年に1度発生する洪水を想定）の浸水想定区域図が発表されたため、6月にはこれに対応したハザードマップ改訂版を作成し、浸水地域に該当する白川流域地域住民の方に説明・周知を行うとともに、各世帯への配布を計画している。</p>	<p>総務課</p>
元	12	<p>・消火栓と消火ホース格納箱、防火水槽等の確認状況の把握はどうしているのか。</p>	<p>・消防団による点検（確認）方法について、消防団幹部会議等でその点検方法や点検の間隔、記録等のフォーマット化や統一化を進めていきたい。</p>	<p>対応中</p>	<p>・消防団幹部会議等において、各分団による消火栓、防火水槽、ホース格納庫等の消防施設の点検方法や点検記録の様式など、町消防団として統一した点検要領などについて検討し運用ができるように進めているところである。</p>	<p>総務課</p>
元	12	<p>大津町ゆかりの身近な選手を大津町として盛り上げようと応援することが若者の人材育成につながると思うが、町、教育委員会としてはどう考えるか。</p>	<p>多くの大津町ゆかりの方々の活躍は、全国や世界に向けた大津町のPRにもなり、町の経済財政等においてもしっかりと貢献しておられると思っている。現在、肥後おおづスポーツ文化コミッションで研究させているので、来年度の予算関連等で検討させていただきたい。</p>	<p>対応中</p>	<p>予算編成を検討する中で研究を重ねてきましたが、パブリックビューイングの実施可能条件の規定が厳しいことが判明しました。今後は規定の許す範囲で、様々な大会におけるパブリックビューイングの実施可否を探っていきます。町ゆかりの身近な選手に対する町あげでの応援については、次代のスポーツ選手の育成や輩出に有効であり、町を盛り上げる活力が生み出されると期待します。しかしながら、選手自身の体調や心情、家族や身近な監督・支援スタッフからの意見、所属する実業団やスポンサーといった方面からの意向や商業利権などが複雑に絡む問題をはらんでおり、非常にデリケートな対応が求められることも判明しました。現時点で想定されるオリンピックレベルの選手については、家族をはじめ慎重を求める関係者意見も強いいため、当面は情勢を見守るところです。</p>	<p>商業観光課</p>

2	3	今年度、57号、北回りのバイパス、豊肥線が同時開通見通しとなっている。国道、県道の青写真を町民にわかりやすく示して合意納得できる説明責任があると思う。また全町的な重要問題であり議会にも質問と回答の機会が必要ではないか。	大津町議会に対する説明は、国土交通省熊本河川国道事務所、町議会事務局と日程を調整させていただきます。	対応中	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策により、協議が遅れていますが開催に向けて調整中。	建設課
---	---	---	--	-----	--	-----

### ③検討中の案件

年	月	質問要旨	答弁要旨	対応方針・進捗状況	所管課	
28	12	・消防団活動の支援の輪を広げる機能別消防団員を設置し、消防団活動を更に強化しないか。	・機能別消防団については、町消防団幹部会議において、議論を始められたところです。今後、すでに機能別消防団を設置している自治体の状況や町消防団幹部会議での検討結果を踏まえながら進めてまいります。	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町消防団幹部会議において、機能別消防団員について検討されているが、団員確保や処遇の問題等の課題も多く時間を要している。一方で、消防団員定数の見直しについても近隣市町村の状況を参考にしながら具体的な定数案について検討しているところがある。</li> <li>・本案件については検討に時間がかかり過ぎているので、できるだけ早い時期に方針を出せるようにしていきたい。</li> </ul>	総務課
元	9	・新生児聴覚検査は、先天性難聴の早期発見に有効として国が推奨しているが、検査を受けるかどうかは任意となっている。平均5,000円ほどの検査費負担もあり、新生児の2割が検査を受けていない状況である。国は全ての新生児の難聴検査の実施に向けて、全国の自治体に積極的な公費助成を求めているが、本町にはこの助成制度がない。早期に発見して適切な療育を受ければ、言葉の発達への影響を最小限に抑えることができる。新生児の先天性聴覚障がいを早期に発見し、療育を推進するため、新生児聴覚検査の重要性を周知するとともに、検査に対する費用の助成を行うべきではないか。行政として支援できる方策を積み重ねていくべきである。	・（難聴児の早期発見・早期治療について）大津町独自で実施できるようにやっていきたいと考えている。	検討中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大津町の実情（受診率が高い）を踏まえ、所得状況に応じた助成制度の実施について検討中であり、県内外の取組事例の情報収集を行ったところ、所得要件を設定した事例は確認できなかった。また、県内の受託医療機関から委託料統一の要望があっているため、本年度開催予定の県の「新生児聴覚検査に係る推進協議会」において、県内の委託料統一について要望する予定。当協議会の協議結果を踏まえ、具体的な助成内容の決定等、実施に向けた準備を進めていく。</li> <li>【参考】令和元年度の未受診者1名</li> </ul>	健康保険課

### ④検討の結果、対応しないこととした案件

該当なし